

令和5年度教育事業
全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
中部ブロック 地方ステージ
「地域探究アワード」

1 趣旨

- ・各自が行った実践活動について発表するプレゼンテーション活動を通して、まとめる力や表現力を養うとともに、自身の発表への講評を聞くことで、新たな気づきや学びの機会とする。
- ・参加者が提出した報告書およびプレゼンテーションについて審査し、全国ステージ出場に向けて準備する。

2 日程

(1) 期 日 令和6年1月13日(土)～14日(日)

(2) 参加者 グループ部門1組(2名) 計2名

(3) 研修内容

① 日程

1月13日(土)

時 間	事 項	備 考
15:30～16:30	夕食の買い出し	
17:00～17:30	受付	
17:30～18:30	夕食づくり	
18:30～19:30	夕食・休憩	
19:30～20:15	発表練習・投影チェック	
20:15～21:00	発表練習を受けての修正等	
21:00～22:00	入浴	
22:00～22:30	就寝準備	
22:30	就寝	

1月14日(土)

時 間	事 項	備 考
7:30～8:00	朝食	
8:00～8:30	清掃	
8:40～9:00	宿舎点検	
9:00～9:20	プレゼンテーション・リハーサル	
9:30～9:50	開会式	
9:50～10:10	プレゼンテーション審査	発表7分、質疑応答8分
10:20～11:00	審査員審議・発表者振り返り	
11:10～12:00	閉会式(結果発表・表彰・講評)	
12:00～13:00	昼食	
13:30	解散	

② 審査方法

書面審査(審査会前)およびプレゼンテーション審査における得点を基に行う。

ア 書面審査(事前に実施)

事前に提出された報告書に記載された内容を基に審査を行う。

グループ部門出場者については、グループ構成員個々人の得点をもとに算出した平均値をグループの得点とする。

イ プレゼンテーション審査(発表7分、質疑応答8分 計15分)

構成、表現力等に加え、質疑応答を含めて総合的に審査を行う。

グループ部門出場者については、全員で1発表として採点する。

③ 評価委員

【グループ部門】	早稲田大学文学学術院	教授	沖	清豪
【グループ部門】	南砺市教育委員会	教育長	松本	謙一
【グループ部門】	国立能登青少年交流の家	所長	北見	靖直

3 成果と課題

(1) 実践活動から地方ステージまでの参加者の学びについて（参加者のアンケートより）

① 「実践活動」について

- ・地域の魅力を伝えるために、自分から勇気を出して行動することができた。魅力を知ってほしい、思い出を残してほしいと思った。
- ・声をかけたり、着ぐるみをきて呼びかけたりすることで、足を止めて聞いて下さったり、声をかけて下さったりしてうれしかった。
- ・オリエンテーション合宿で得た学びを活かして実践活動に取り組むことができた。

② 「実践活動報告書」作成について

- ・自分の伝えたいことを言語化し、まとめて表現するのは大変だった。しかし、自分の思いを言語化することが苦手な自分にとっては少し克服する機会になった。
- ・施設職員からの的確な助言や改善点をいただき、作成に活かすことができた。

③ 「地域探究アワード」について

- ・発表の仕方（身振り手振り、声の強弱、視線等）で足りなかったところを明確に教えてもらった。
- ・発表の際は緊張したけど、今自分が出せる発表の力を出し切ることができた。
- ・質疑応答では、自分が伝えたいことをうまくまとめられなかったので、全国ステージまでに、質問内容を想定し、明確に答えられるようにイメージを作っていたい。



【発表の様子】

※上記はいずれも、全国ステージに参加する参加者の感想

(2) 成果と課題（運営面）

① 成果

- ・今年度はグループ部門 1 組のみエントリーであったが、両日とも能登・立山・若狭湾 3 施設の専門職で明確に役割分担することができた。
- ・より良い発表となるよう、専門職が視点を決めて助言を行うとともに、参加者がプレゼンテーションを修正・改善する時間を確保することができた。
- ・各委員が発表者に対して全国ステージを見据えた講評を行い、参加者はそれぞれの視点からフィードバックを受けることができた。

② 課題

- ・諸事情で当アワードに参加できなかったが、参加意欲のある高校生がOR合宿参加者の中に複数名いた。こうした生徒も発表を視聴できる機会を検討したい。
- ・発表の構成について、シートや付箋等で可視化することで、工夫や改善点が明確になる。限られた時間で効果的なプレゼンテーション練習となるよう手だてを工夫したい。